

小麦赤かび病の発生に注意しましょう！

[現在の状況]

- ① 赤かび病の原因となる子のう胞子は、気温が高く、曇雨天の日に飛散する。本年は、4月第5、6半旬に赤かび病菌の胞子飛散好適条件が多くの地点で連続した。また、5月第2半旬に出現している（表）。
- ② 昨年5月下旬に県内11地点で実施した巡回調査において、麦類赤かび病の発病穂率は2.4%（平年値0.6%）で過去10年間と比較して最も高かった。そのため、本病の一次伝染源となる病原菌の越冬量が多いと考えられる。
- ③ 5月5日発表の気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されており、本病の発生を助長する条件である。

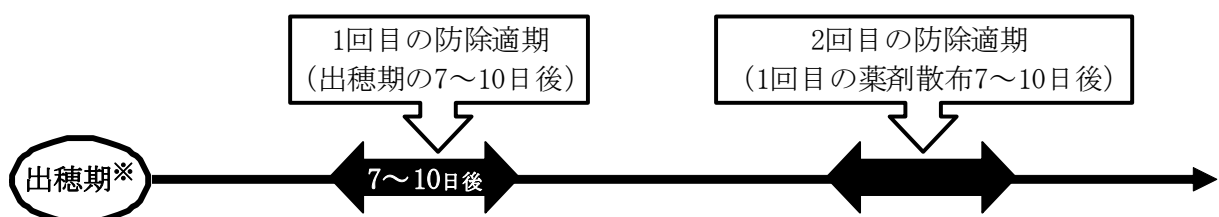
表 赤かび病の子のう胞子飛散好適条件の出現状況

	アメダス地点	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	
県北	日立		●	●	●	●	●	●	●	●									●	●	●	
	常陸大宮			●	●	●		●	●											●	●	
県央	水戸			●	●	●	●	●	●											●	●	
	笠間			●	●	●		●	●											●	●	
鹿行	鉾田			●	●	●	●	●	●											●	●	●
県南	土浦		●	●	●	●	●	●	●	●										●	●	●
	龍ヶ崎		●	●	●	●	●	●	●	●										●	●	●
	つくば			●	●	●	●	●	●	●										●	●	●
県西	下館		●	●	●	●	●	●	●	●										●	●	●
	下妻		●	●	●	●	●	●	●	●										●	●	●
	古河			●	●	●	●	●	●	●												●

●：子のう胞子の飛散好適日（日最低気温10℃以上、日最高気温15℃以上で、降雨日とその翌日）

[防除対策]

- ① 小麦は、開花から10日間程度の間が最も感染しやすい時期であり、1回目の防除適期は開花始期～開花期（出穂期の7～10日後）である（図）。出穂期および防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。なお、使用薬剤については病害虫速報 No. 2（令和4年4月14日発表）を参照する。
- ② 1回目の薬剤散布を行っていない圃場では直ちに薬剤散布を行う。今後、降雨が続く場合、1回目の薬剤散布を行った圃場では、散布7～10日後に2回目の散布を行う（図）。2回以上散布する場合は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を用いる。



※出穂期：圃場全体の40～50%が出穂した日

図 小麦赤かび病の防除適期